

令和4年度 三田市レジ袋ゼロ推進懇話会 会議概要

会議の名称	令和4年度 三田市レジ袋ゼロ推進懇話会
会議の日時	令和4年12月16日(金) 10:00~11:00
会議の場所	三田市役所 本庁舎 5階 502会議室
出席者	出席者5名(市民団体:3名、協定締結事業者1名、一般参加1名) ・市民団体:三田市消費者協会会長 石出 正子、三田市老人連合会 副会長 今北 喜代子、三田市商工会 梶田 悠太 ・協定締結事業者:生活協同組合コープこうべ 松井 清武 ・一般参加:松田 晴美
事務局	三田市 まちの再生部 ゼロカーボンシティ推進室長 辻下 進一、環境創造課係長 辰巳 武人 環境創造課事務職員 樋口 諒介

1. 開 会

(1)資料の確認

(2)出席者自己紹介

2. 議 事

(1)令和3年度のレジ袋削減実績報告

(事務局)「令和3年度レジ袋削減実績」【資料①】について説明

- 参加者から
- ・昨年のまちなみガーデンショーでは袋を店側から渡しているところがあった。個人商店はサービスとして渡しているところもあるようだ。
 - ・レジ袋の有料化の反発は一定数あるが、マイバック持参者は若者も含めて増えていると感じる。
 - ・環境配慮型のレジ袋を使ったとしても、作る時に出不いだけで燃やすことでCO2は発生する。
 - ・R3年度レジ袋平均辞退率が90.8%と昨年に引き続き高い数値で推移している。ようやくここまで来たと感じる。ただ有料でもそれなりにレジ袋が販売されているので引き続き削減のPRも必要である。
 - ・事業所で、貸し出しのレンタルバックやシェアバック(紙袋を事前に集めて利用する)を行っているところもある。
 - ・事業所で、レジ袋の回収を行いリサイクルしているところもあるが、まだ定着率が20%ほどである。
 - ・さらなるPRとしてポイント還元も一つの方法。ただ、まずは消費者が感じたことを伝えていくことが重要だ。

(2)取り組み内容の報告

(事務局)「取り組み内容(R3.10からR4.12)」【資料②】について説明

- 参加者から
- ・ポスター賞名を最優秀賞や優秀賞という名称は子供たちの優劣をつけることになりかねない。ピカイチ賞や市長賞という名称に変えられないか検討してほしい。

(3)さんだゼロカーボンシティ推進計画(素案)の概要

(事務局)「さんだゼロカーボンシティ推進計画(素案)の概要」【資料③】について説明

事務局 2021年6月3日に三田市においてもゼロカーボンシティに挑戦することを表明しており、実現に向けて令和5年1月にはパブリックコメントの募集を行う予定である。再生可能エネルギーの導入や省エネルギー対策、CO₂排出抑制などの基本方針をもとに施策を進めていく。レジ袋ゼロ推進の今後の取り組みとしてもさんだゼロカーボンシティ推進計画(素案)に沿って進めていきたいと考えている。

質疑応答 1. レジ袋のブランド化について

「レジ袋やジップロックなどを市としてブランド化して販売できないだろうか」

→まずは市指定ゴミ袋からと考える。現在バイオマスプラスチックを使用した家庭系指定ゴミ袋のモニター調査を行っている。今回バイオマスプラスチックの含有量を25%にしたものであるが、破れやすいかなどの使用面と通常のごみ袋より単価が高くなることのバランスを見ながら検討していくところである。

参加者から

- ・ゼロカーボンシティという大きな目標が設定され、今までとは違いバックキャスティングでの問題解決が必要になる。
- ・無駄なものは使わない。エコバックを販売するうえでは、より機能を持たせたエコバックがあればいいと思う(持ち手のクッションつきなど)。
- ・事業所で電気自動車の購入をしたが、まだまだ個人で買うことができる価格ではないと思った。

(4)今後の取り組みについて

事務局から

- ・今後のレジ袋ゼロ推進懇話会について様々な意見があるかとは思いますが、今後事務局の方でも予算がかたまりましたら委員の皆様には追って事業の案内を行います。

会長から

- ・(3)さんだゼロカーボンシティ推進計画(素案)もふまえて、ゼロカーボンシティ推進として今後活動していくのも一つかと思われる。
- ・活動の仕組みが変わることになったとしても、個人個人が小さな気づきをどれだけ実践していけるかが重要である。

3. 開 会